

10 頸脈エコーから動脈硬化症の疫学的研究 沖縄県石垣市における生活習慣病の発症要因に関するコ ホート研究から —地域住民検診におけるベースライン調査と追跡調査の 現状について—

研究代表者名：林 純

共同研究者名：澤山泰典、古庄憲浩、前田晋至、大西八郎、武岡宏明、豊田一弘、小川栄一、古賀恒久、
永樂訓三、迎 はる、大田黒滋、村田昌之

施設 名：九州大学病院総合診療部（感染環境医学）

目的

本疫学研究では、地域集団における脳卒中、心筋梗塞、悪性疾患などの生活習慣病の発症要因を明らかにすることを目的としている。2004年7月19日～2004年12月31日の期間に沖縄県石垣市（2004年度国勢調査時人口：男性22664名、女性23344名、65歳以上の人口16.5%）の住民検診を受診し、さらに本研究の参加に同意した4872名のうちデータ欠損のない3633名（登録率69.4%）をJALSプロトコルに基づくJALS統合研究コホート研究の対象者として登録し、現在、追跡調査を実施している。本報告では、ベースライン調査の実績および2008年度追跡調査の現況について概説する。

ベースライン調査の方法

2004年度登録開始時に地域住民検診を受診した中の対象者は、身長、体重、腹囲、血圧を測定し、採血後、食事、喫煙・飲酒を含むアンケート調査を実施した。さらに、すべて終了後に頸動脈エコーによる内膜中膜複合耐圧 intima-media thickness (IMT) を測定した。

ベースライン時の実績

横断調査による実績を記述する。ベースライン調査は、基本検診を受診した男女合5498名に実施した。そのうち、JALS研究への協力可能であった3633名を研究対象者として登録した（登録率69%）。JALSプロトコルで定められている検査項目、生活状況調査以外に、さらに詳細な328項目にわたる食事や運動の習慣（栄養および生活活動量調査）なども統合研究事務所に提出している。さらに、各研究として、高感度CRP、ホモシスチン、検尿（糖、タンパク、潜血）における項目も提出しており、統合研究での活用が可能である。

追跡調査の実施方法

本コホートでは、ベースライン調査開始当初から当該市健康福祉センターの協力のもとに、2007年度本コホート研究対象者の検診受診者・死亡・転出に関する調査を実施した。まず、2007年度住民検診を受診した検診者を生存とした。検診未受診者に対して、2008年4月11日現在における住民基本台帳データから追跡対象者情報を切り出し、打ち切り例の検索を実施した。さらに、死亡対象者において、死因を明らか

にするために死亡台帳による総死亡の確認を実施し、脳・心血管疾患による死亡調査を実施した。

追跡調査の結果（死亡・転出状況）

本年度は、追跡調査開始後における縦断調査の実績について報告する。

2004年7月19日～12月31日で登録を終了し、登録調査から2008年4月11日までの平均37.2ヶ月（0.2-44.6ヶ月）における観察期間の追跡調査を実施した。5名（男性1名、女性4名）の追跡不能を除いた参加者3594名は生存し、144名はエンドポイントに至り、33名（男性21名、女性12名）の死亡、110名（男性29名、女性81名）の転出の把握を完了した。また、33名の死因の内訳は、脳血管疾患3名、心血管疾患2名、悪性疾患16名、感染症2名、その他11名（心不全2名、事故4名、自殺1名、住基による死亡確認のみ4名）であった。

今後の課題

血管系疾患の死亡例における調査に関しては、現在のところ（2008年4月11日現在）、死亡台帳による確認のみであり、病院カルテによる調査が行えていない。今後、家族の同意を得た死亡対象者について、県立病院および医師会を含む地域医療機関の協力のもとに病巣部位の確認について実施を行う予定である。一方、対象者の非致死性血管系イベント発症について、郵送による自記式の調査を調査票により、今後データを蓄積し、リスク要因の解析を進める予定である。